



現場から（最近のニュースから）

私とは何か

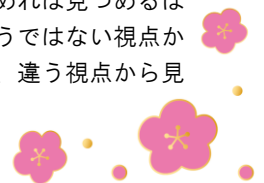


どこを見ても、スマホをスクロールしている人を見る時代になりました。「本当は何が知りたいのか、自分に何が必要なかわからないまま SNS の世界に浸り続け、気が付けば自分自身を見失ってしまった——。」スマホ時代の過剰な繋がりによって失われた〈私〉を私たちはどうやって取り戻すのかを書いた岩内章太郎『〈私〉を取り戻す哲学』から抜粋・編集した記事がありました。

岩内氏は、大学院を退学して仕事を転々としていたとき、将来の展望もなく、暗い思いにとらわれていたそうです。そのとき、自分を悩ませていたのは、社会的承認や将来の展望がないことだけではなく、本質的には「自己イメージ」だった気がすると言われています。人々が自分を拒んだのではなく、自分が人々を拒み、自分が自分を見せるのが恥ずかしいと、〈私〉が〈私〉に苦しんでいたと言われます。その体験ゆえ、「〈私〉を取り戻す哲学」を書いたそうです。

その本で岩内氏は、まず、現実世界の〈私〉のことを、平野啓一郎氏の「私とは何か」という本から紹介しています。平野氏が「〈私〉の内実は中心が存在しない「分人」の束だ」と表現しているそうです。つまり、周囲の人々や環境、気分で〈私〉は〈私〉を調整しているのですが、それは、その場面に合わせているのであって、相手次第でオートマチックになされているので、私の中にある一つの人格を中心にしてではなく、周りに合わせているだけだということです。その後で、サイバースペースの中での〈私〉はどうであるかを言われています。サイバースペースでは、もっと〈私〉は、自由に変容していて、いつもの〈私〉とは異なる〈私〉を生きているということです。SNS での〈私〉と現実世界の〈私〉があまりにもかけ離れていると、〈私〉が〈私〉のことを分からなくなるということです。「〈私〉は〈私〉を演出することができる。それをやりすぎると、今度は逆に、〈私〉がどういう存在なのかが——〈私〉にも他者にも——分からなくなってくる。」そこから、〈私〉が〈私〉であるとは、何を意味するのかと哲学的に考えています。そこで、私には限界があり弱さがあり、自分が自分をコントロールしきれないのに、なんとかコントロールしようとするのが葛藤となるので苦しむのだと分析していきます。ですから、その限界を自分が認め、弱い自分だけが担える役目が見えて来れば苦しむことから解放されると論じています。（1月23日現代ビジネス〈なぜ私たちはこんなに「SNS に疲れている」のか…気鋭の哲学者が明かす「意外な理由」>より）

いま、「私とはなにか」を自分に尋ねたとき、答えられるでしょうか。だれかの子ども、親、配偶者、どこかの会社員など…という、だれかとの関係や所属している場所、している仕事で説明したりすることが多いですが、私自身はだれなのか、何なのかを考えることはあるでしょうか。記事にあったように、それぞれ会う相手に合わせて演出していると言われたら、たしかにそうだと思えますが、では演出しない私はどんな私なのでしょうか。そして、弱さと限界がある自分を認めても、どうしてもそこで自分の役目が見つけれないのはなぜでしょうか。自分を見つめれば見つめるほど、わけが分からなくなる気がします。それは、自分で自分を見るからです。そうではない視点から、あなた自身を見て、なぜ弱さや限界があるのか、そしてどうしたら良いのか、違う視点から見てもみませんか。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあり、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になる、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快樂に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってください。感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください